

平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年11月2日

上場取引所 大

上場会社名 アドソル日進株式会社

コード番号 3837 URL <http://www.adniss.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 上田 富三

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務部長

(氏名) 三重野 裕彦

四半期報告書提出予定日 平成23年11月4日

配当支払開始予定日

TEL 03-5796-3131

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

平成23年12月2日

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	3,689	10.2	64	△34.8	66	△36.3	37	△20.1
23年3月期第2四半期	3,348	2.4	98	—	103	—	46	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	25.48	—
23年3月期第2四半期	31.87	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	3,610	1,782	49.4
23年3月期	3,680	1,764	47.9

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 1,782百万円 23年3月期 1,764百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	7.00	—	13.00	20.00
24年3月期	—	9.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	15.00	24.00

(注)直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,100	0.0	209	13.5	200	△9.7	116	21.8	78.93

(注)直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	1,521,910 株	23年3月期	1,521,910 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	52,401 株	23年3月期	52,401 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	1,469,509 株	23年3月期2Q	1,469,571 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象ではありませんが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
四半期決算補足説明資料は、平成23年11月22日(火)に当社ホームページに掲載いたします。

アドソル日進(株)(3837)平成24年3月期 第2四半期決算短信(非連結)

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 継続企業の前提に関する注記	7
(5) セグメント情報等	7
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間における我が国の経済は、東日本大震災の影響で寸断されたサプライチェーンの復旧に伴い、徐々に景気を持ち直しが期待されるものの、電力供給の制約、米国・欧州における財政不安による世界経済の減速、急激な円高や株安の進行等懸念材料も多い状況が続いております。

当社が属する情報サービス産業においても、震災後の需要として、節電関連、環境・エネルギー分野、セキュリティ、クラウド関連サービス等が見込まれるものの、景気の不透明感から顧客におけるIT投資に対する慎重な姿勢が続いており、継続案件の縮小や新規案件の先送り等厳しい事業環境が続いております。

このような環境下において、当社は次の重点施策に取組みました。

事業戦略では、ビジネス事業とエンジニアリング事業の拡充策として、顧客との連携強化及び全社横断的なソリューション提案により、エンド・ユーザ開拓を推進しました。

ビジネス事業の重点施策としては、要件定義～設計・開発までの「一括請負」と、システム稼働後の「保守サービス」を、エンド・ユーザ志向で提供する活動を展開しました。

エンジニアリング事業の重点施策としては、仕様決定段階からの参画とソリューション提案により、顧客から顔の見える存在としてプレゼンスを発揮する活動を展開しました。

ユビキタス事業の事業モデルの確立策として、IDソリューション及びセンサ・ネットワーク・ソリューションの研究開発と商品化に取組むと共に、各種展示会へ積極的に出展し、これらソリューションの紹介と、共同開発先の開拓に注力しました。

コーポレート戦略では、「一括請負」と「保守サービス」の拡大に向け、開発環境の整備を目的に、関西支社を移転しました。

又、ソリューション開発の一環として、スマートフォンやタブレット端末を活用した新たなサービスの研究や技術習得に取組みました。

組織及びプロジェクトのマネジメント・レベルの向上策として、判断のスピード化と顧客への提案・折衝及びプロジェクトの推進・管理等を含めた現場力を強化する為に、PMP資格者の育成に取組みました。

又、業務効率向上に向け、業務改革推進部を中心に、業務の改善及びIT化の推進に取組みました。

以上の結果、当第2四半期累計期間においては、震災の影響による開発需要の減少が想定以下に留まったことや、期初での受注残水準が高かったことから、売上高は3,689百万円と前年同期比10.2%の増収となりました。

一方、増収に伴い稼働率が高い水準で推移したものの、ユーザからのコストダウン要請が厳しかったことから、原価率が上昇し、又、事業強化策の一環として、開発環境の整備や教育関連、研究開発への投資を実施したことで、販売管理費の増加を増収効果で補えず、営業利益は、64百万円と前年同期比34.8%の減益、経常利益は66百万円と前年同期比36.3%の減益、四半期純利益は37百万円と前年同期比20.1%の減益となりました。

各セグメント別の状況は、次の通りであります。

①ビジネス事業

ビジネス事業では、公益企業向け基幹システムの1案件で開発工程が収束したことに加え、信販向けカード業務が保守工程に移行して業務量が減少したものの、銀行向け営業店システムが順調に拡大すると共に、ユーザ企業向け帳票関連が堅調に推移しました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は、1,732百万円と前年同期比6.7%の増収となりました。

②エンジニアリング事業

エンジニアリング事業では、携帯電話開発は全体で縮小しつつあり、通信監視・通信管理関連も低調に推移しました。

一方、事務機器メーカー向け次世代複合機の開発が継続した他、半導体洗浄装置関連業務が堅調に推移し、航空関連業務及び印刷業向けシステム開発が拡大しました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は、1,699百万円と前年同期比8.7%の増収となりました。

③ユビキタス事業

ユビキタス事業では、温湿度監視、エネルギー遠隔監視、空調照明制御等のシステム開発の他、ZigbeeとPLCのハイブリッド型端末を開発・納品しました。

又、共連れ検知対応ハンズフリー認証システム(Air Gate Eye)を商品化し販売を開始した他、Zigbeeと小型タグを応用した人とモノの所在を検知するエリア管理ソリューションを開発しました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は、257百万円と前年同期比60.2%の増収となりました。

アドソル日進(株)(3837)平成24年3月期 第2四半期決算短信(非連結)

(2) 財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

流動資産は、2,584百万円と前事業年度末に比べ100百万円減少しました。

主な変動要因としては、売掛金の回収により受取手形及び売掛金が1,432百万円と前事業年度末に比べ95百万円減少したこと等によります。

固定資産は、1,025百万円と前事業年度末に比べ30百万円増加しました。

主な変動要因としては、敷金の差入れ等により投資その他の資産が445百万円と前事業年度末に比べ20百万円増加したこと等によります。

これにより、資産合計は、3,610百万円と前事業年度末に比べ70百万円減少しました。

一方、流動負債は、959百万円と前事業年度末に比べ53百万円減少しました。

主な変動要因としては、法人税等の支払により未払法人税等が34百万円と前事業年度末に比べ86百万円減少したこと等によります。

固定負債は、867百万円と前事業年度末に比べ34百万円減少しました。

主な変動要因としては、借入金の返済により長期借入金が153百万円と前事業年度末に比べ36百万円減少したこと等によります。

これにより、負債合計は、1,827百万円と前事業年度末に比べ88百万円減少しました。

純資産は、1,782百万円と前事業年度末に比べ18百万円増加しました。

主な変動要因としては、期末配当金19百万円を支払った一方で、四半期純利益37百万円を計上できたことにより利益剰余金が1,148百万円と前事業年度末に比べ18百万円増加したことによります。

以上の結果、自己資本比率は、49.4%と前事業年度末に対して1.5ポイント上昇しております。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前第2四半期会計期間末に比べ14百万円増加し712百万円となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、87百万円増加（前年同期は119百万円増加）となりました。

この主な要因としては、売上債権の減少により95百万円増加したこと等によります。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、33百万円減少（前年同期は8百万円増加）となりました。

この主な要因としては、敷金及び保証金の差入による支出で32百万円減少したこと等によります。

以上により、フリー・キャッシュ・フローは、53百万円増加（前年同期は128百万円増加）となりました。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、57百万円減少（前年同期は297百万円増加）となりました。

主な要因としては、長期借入金の返済による支出で36百万円減少、配当金の支払により19百万円減少したこと等によります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期の通期業績予想につきましては、平成23年10月20日に公表しました業績予想に変更はありません。

アドソル日進(株)(3837)平成24年3月期 第2四半期決算短信(非連結)

4. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	715,707	712,143
受取手形及び売掛金	1,528,096	1,432,432
商品及び製品	16	15
仕掛品	130,894	143,234
原材料及び貯蔵品	39,520	33,121
その他	271,402	263,764
貸倒引当金	△305	△286
流動資産合計	2,685,333	2,584,425
固定資産		
有形固定資産		
土地	371,169	371,169
その他(純額)	179,467	192,777
有形固定資産合計	550,636	563,946
無形固定資産	18,804	16,014
投資その他の資産	425,851	445,938
固定資産合計	995,292	1,025,899
資産合計	3,680,626	3,610,324
負債の部		
流動負債		
買掛金	285,556	295,311
1年内返済予定の長期借入金	73,200	73,200
未払金	114,197	149,254
未払法人税等	120,472	34,307
賞与引当金	286,100	283,350
工事損失引当金	4,074	170
その他	130,233	124,374
流動負債合計	1,013,834	959,967
固定負債		
長期借入金	190,200	153,600
退職給付引当金	643,083	651,113
その他	69,391	63,179
固定負債合計	902,674	867,893
負債合計	1,916,508	1,827,860
純資産の部		
株主資本		
資本金	499,756	499,756
資本剰余金	204,756	204,756
利益剰余金	1,130,297	1,148,644
自己株式	△70,693	△70,693
株主資本合計	1,764,117	1,782,463
純資産合計	1,764,117	1,782,463
負債純資産合計	3,680,626	3,610,324

アドソル日進(株)(3837)平成24年3月期 第2四半期決算短信(非連結)

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	3,348,690	3,689,760
売上原価	2,649,160	2,981,416
売上総利益	699,530	708,344
販売費及び一般管理費	601,119	644,217
営業利益	98,410	64,126
営業外収益		
受取利息	10	6
受取保険金	—	3,000
保険返戻金	7,658	—
保険取扱手数料	1,117	866
雑収入	1,660	2,576
営業外収益合計	10,446	6,448
営業外費用		
支払利息	130	1,521
売上債権売却損	3,522	2,096
コミットメントフィー	1,158	762
雑損失	58	2
営業外費用合計	4,870	4,382
経常利益	103,987	66,192
特別利益		
貸倒引当金戻入額	24	—
特別利益合計	24	—
特別損失		
投資有価証券評価損	—	165
固定資産除却損	4	1,585
保険積立金解約損	8,827	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	12,590	—
特別損失合計	21,423	1,750
税引前四半期純利益	82,588	64,442
法人税等	35,741	26,991
四半期純利益	46,847	37,450

アドソル日進(株)(3837)平成24年3月期 第2四半期決算短信(非連結)

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	82,588	64,442
減価償却費	14,629	14,645
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△24	△19
賞与引当金の増減額(△は減少)	26,400	△2,750
退職給付引当金の増減額(△は減少)	26,027	8,029
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△67,360	—
工事損失引当金の増減額(△は減少)	△2,174	△3,904
受取利息及び受取配当金	△10	△6
保険返戻金	△7,658	—
支払利息	130	1,521
有形固定資産除却損	4	1,585
投資有価証券評価損益(△は益)	—	165
保険解約損益(△は益)	8,827	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	12,590	—
売上債権の増減額(△は増加)	10,255	95,664
たな卸資産の増減額(△は増加)	△26,097	△5,939
前払費用の増減額(△は増加)	779	954
仕入債務の増減額(△は減少)	25,230	9,754
前受金の増減額(△は減少)	△2,763	△5,190
未払消費税等の増減額(△は減少)	△1,125	△4,559
長期未払金の増減額(△は減少)	67,420	△5,320
その他	4,192	32,609
小計	171,862	201,684
利息及び配当金の受取額	12	6
利息の支払額	△337	△1,518
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△52,276	△112,599
営業活動によるキャッシュ・フロー	119,261	87,573
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,060	—
無形固定資産の取得による支出	△2,720	△464
投資有価証券の取得による支出	△3,500	—
敷金及び保証金の差入による支出	—	△32,685
敷金及び保証金の回収による収入	1,728	—
保険積立金の解約による収入	17,804	—
その他	△3,374	△699
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,877	△33,850
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	300,000	—
長期借入金の返済による支出	—	△36,600
配当金の支払額	△164	△19,088
自己株式の取得による支出	△50	—
その他	△2,276	△1,598
財務活動によるキャッシュ・フロー	297,509	△57,287
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	425,648	△3,563
現金及び現金同等物の期首残高	272,284	715,707
現金及び現金同等物の四半期末残高	697,932	712,143

アドソル日進(株)(3837)平成24年3月期 第2四半期決算短信(非連結)

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	ビジネス 事業	エンジニア リング事業	ユビキタス 事業	計	調整額 (注) 1	四半期損益計算書 計上額 (注) 2
売上高						
外部顧客への売上高	1,624,061	1,563,741	160,887	3,348,690	—	3,348,690
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,624,061	1,563,741	160,887	3,348,690	—	3,348,690
セグメント利益又は 損失 (△)	216,075	204,624	△3,067	417,632	△319,221	98,410

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△319,221千円は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	ビジネス 事業	エンジニア リング事業	ユビキタス 事業	計	調整額 (注) 1	四半期損益計算書 計上額 (注) 2
売上高						
外部顧客への売上高	1,732,642	1,699,361	257,756	3,689,760	—	3,689,760
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,732,642	1,699,361	257,756	3,689,760	—	3,689,760
セグメント利益	204,155	206,304	24,120	434,579	△370,452	64,126

(注) 1. セグメント利益の調整額△370,452千円は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。